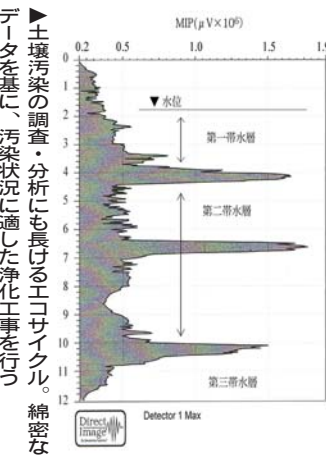
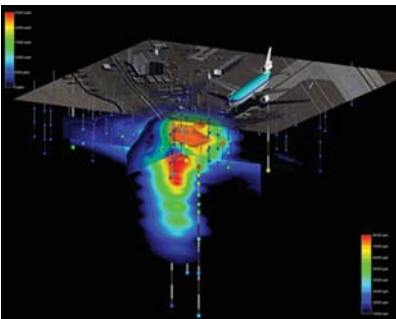
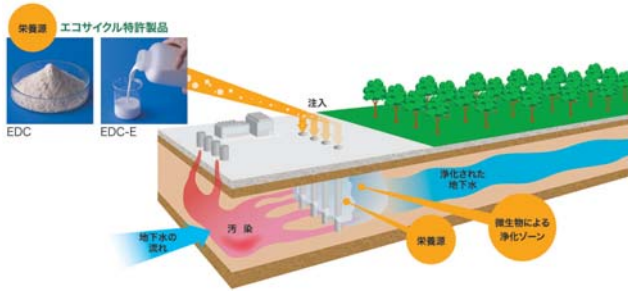


工場稼働のまま〈土壌・地下水汚染〉を浄化

エコサイクルの浄化技術

短工期&低コストでパークを分解



▶土壌汚染の調査・分析にも長けるエコサイクル。綿密なデータを基に、汚染状況に適した浄化工事を行う

昨日、廃業や事業縮小によるクリーニング工場の売却、あるいは工場建物の老朽化により建て替えを検討する業者も増えていますが、土地売却時などに問題となるのが、地下の土壌汚染だ。過去にパーク溶剤等を使用した工場では、土壌汚染の調査を行い、法に基づいて浄化対策を講じなければならぬ。その浄化工法も様々で、コストや工期等をよく考えて選定することが求められる。今回は最近、クリーニング工場で施工例が増えているという、エコサイクル(株) (本社・東京都中央区、シュハリ・チャンドラカトギ社長) の「EDC」など土壌汚染対策を取り上げる。

工場廃止も土地売れず…

土壌汚染対策法では、超える場合は、汚染拡散防止対策を実施しなければならぬ。基準を超えたままの土地は区域指定

土壌を汚染した場合、土地の所有者が汚染処理計画書を作成・提出、土壌処理対策を実施し、完了の届出を行うことが義務付けられている。また、有害物質を使用する工場を廃止する際、汚染が生じているか不明の場合は土壌調査を行い、基準を

コストかさむ浄化工法も

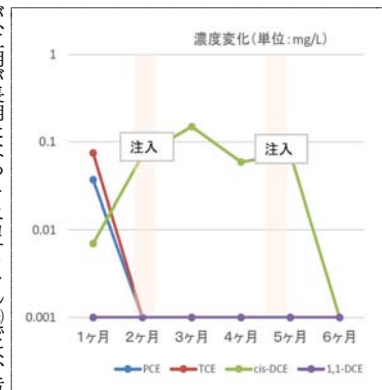
クリーン工業では、去が挙げられる更地状を活性炭に吸着するなど置し、気化した有害物質を活性炭に吸着するなどして除去。低コストで、工場稼働のまま工事可能だ



次に「土壌では実際、どのようにガス吸引。必汚染した土壌を浄化する要な箇所を掘削工事。工場稼働のまま浄化することも可能

半年〜1年で浄化完了

エコサイクルが行う浄化工法の中でも注目されているのが特許技術の「EDC」(バイオ栄養源)だ。EDCは、土壌・地下水中に生息する微生物を活性化し、パークなどを機塩素化合物を分解。EDCを水に溶かして井戸から土壌に注入すること



◀稼働中クリーニング工場の浄化(250㎡)。パーク(PCE)、トリクロロエチレン等は2か月で大幅に減少、6ヵ月ですべて基準値をクリアした

エコサイクル(株)では、汚染状況や規模により多様があるが、国内外で土壌浄化事業を展開する。費用も、土壌掘削が1㎡あたり5万円〜10万円かかるのに対し、EDCでは1万円〜3万円と、3分の1以下の低コストで浄化できる。なお、EDC原料は食品材料であり、EDCの減少により微生物も減少しているのが特許技術の「EDC」(バイオ栄養源)だ。EDCは、土壌・地下水中に生息する微生物を活性化し、パークなどを機塩素化合物を分解。EDCを水に溶かして井戸から土壌に注入すること

調査し工事をスムーズに

エコサイクルでは、法要になった、廃業で土壌汚染調査に合地を売却したいが、工場を稼働させながら土壌を調査と分析を行い、その汚染状況に適した浄化対策を講じたい、後継者に浄化を任せたいといった相談が増えているという。同社では現在、クリーニング業者を対象に、土壌汚染対策の個別相談を実施中。対策の提案や見積もりを無料で提供している。詳しくは、TEL03-6661-1875まで。

エコサイクル(株)では、汚染状況や規模により多様な技術、工法を組み合わせ、最適なソリューションを提供している。費用も、土壌掘削が1㎡あたり5万円〜10万円かかるのに対し、EDCでは1万円〜3万円と、3分の1以下の低コストで浄化できる。なお、EDC原料は食品材料であり、EDCの減少により微生物も減少しているのが特許技術の「EDC」(バイオ栄養源)だ。EDCは、土壌・地下水中に生息する微生物を活性化し、パークなどを機塩素化合物を分解。EDCを水に溶かして井戸から土壌に注入すること